

# 京都大学 創って、操って、奏でる「理のバリアフリー」 バリアフリーシンポジウム2017

9月9日 土 13:00~17:00 | 9月10日 日 10:00~15:15  
※17:30より情報交換会

**会場** 京都大学 吉田キャンパス 北部構内 理学研究科6号館4階401号室

障害者差別解消法の施行により、各方面で「合理的配慮」が模索されています。大学における障害学生支援の分野ではハード面、ソフト面の対応が充実し、障害の有無に関係なく、「ともに学ぶ」インクルーシブな教育環境が整備されてきました。

しかし、そもそも「合理的」とは何でしょうか。世間一般の“理”とは、健常者、マジョリティによって創出されたものです。障害者、マイノリティはさまざまな場面で、否応なくこの“理”に合わせることを求められます。「合理的配慮」が、“理”に合う／合わないという以前に、「合わせる」ことを一方的に強いるなら、差別解消は絵に描いた餅で終わってしまうでしょう。

既存の“理”を疑い、頭だけではなく、身体を動かして、真理を探究するのが京都大学の伝統です。本シンポジウムでは、「創る理」「操る理」「奏でる理」の三部構成で、「理のバリアフリー」を具体化する方途を示します。三つのセッションを通じて、真理に立脚する「合理的配慮」の指針を提示できれば幸いです。



**申込** 8月21日(月)まで ※事前申込制、参加費無料(情報交換会費は別途)


以下のWebページにある申込フォームからお申込ください。

<https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/support/bfsform.php>

情報保障等の配慮が必要な場合は、申込フォームにてお知らせください。

Webからの申込が困難な場合には、E-mailかお電話にてお申込ください。

**定員** シンポジウム: 各日200名 (いずれも先着順)  
情報交換会: 80名

 京都市バス17系統、203系統「京大農学部前」下車すぐ  
同3系統、31系統、201系統、206系統「百万遍」下車、東へ徒歩10分

 京阪電鉄出町柳駅下車、東へ徒歩20分



※来場にあたっては、公共の交通機関をご利用ください。

主催: 京都大学 学生総合支援センター

事務局: 京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 TEL: 075-753-2317 FAX: 075-753-2319 E-mail: d-support-sympo@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

後援: 京都府教育委員会・京都市教育委員会・公益財団法人大学コンソーシアム京都

# 京都大学バリアフリーシンポジウム 2017 プログラム

## 1 日目 9月9日 (土)

- 12:00 ■ 受付開始
- 13:00 ■ 開会挨拶
- 13:05 ■ 趣旨説明

### 13:30 ■ 第一部：「理を創る」

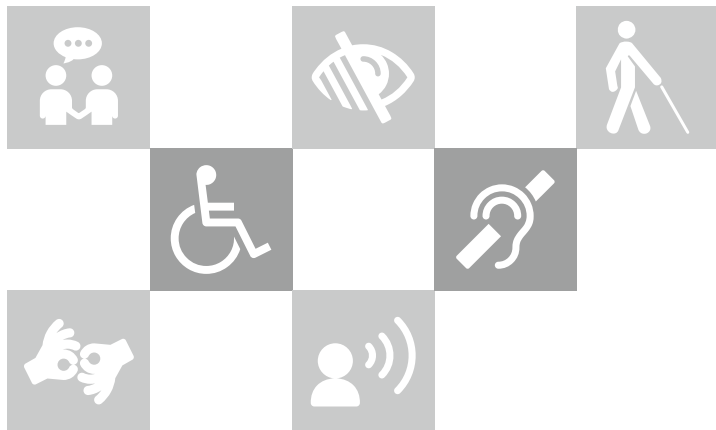
「障害」という概念を導入することにより、従来の学問は改変を迫られるのではないのでしょうか。20世紀的な学問は意識的、あるいは無意識的に「障害」を度外視してきました。「障害」について考えることは、学問そのものの成り立ちを根底から問い直す壮大な「知の再編」作業につながります。「障害」とは、現在の学問の“理”ではとらえきれない社会・文化現象です。近代的な知性のみでは「障害」を分析することができません。だからこそ、「障害」を切り口として、新たな「理を創る」ことにより、21世紀の学問はダイナミックに展開するでしょう。第一部では「障害」を自身の研究のキーワードとし、新領域の開拓をめざす研究者3名に講演していただきます。

コーディネーター：嶺重 慎（京都大学 大学院理学研究科 教授）  
講演者：杉野 昭博（首都大学東京 都市教養学部 教授）  
松井 彰彦（東京大学 大学院経済学研究科 教授）  
広瀬 浩二郎（国立民族学博物館 准教授）

### 17:00 ■ 閉会

### 17:30 ■ 情報交換会（～19:00）

1日目のプログラム終了後、以下の通り情報交換会を開催いたします。参加希望の方は、申込の際にあわせてご連絡ください。  
場所：京都大学 吉田キャンパス・北部構内  
北部食堂 2階多目的ホール  
費用：3,000円 ※当日精算



- ・2日目は日曜日のため、構内の生協食堂がお休みです。各自、昼食をご用意ください。
- ・建物入口の左手に飲み物の自動販売機があります。なお、会場での飲食は自由ですが、ゴミはお持ち帰りをお願いいたします。

## 2 日目 9月10日 (日)

- 9:30 ■ 受付開始
- 10:00 ■ オープニング

### 10:05 ■ 第二部：「理を操る」

全国には「障害」と日々向き合いながら、学問の道を模索している若手研究者が多数存在します。健常者によって組み立てられた“理”の中で、彼らが一定の成果を上げるためには、人一倍の努力と工夫が必要なのは間違いないでしょう。同じ研究をするに当たって、障害者は健常者以上の時間と労力がかかるのは厳然たる事実です。障害者はこの時間と労力を媒介として、オリジナルの研究手法、「理を操る」術を磨いています。既存の“理”を批判・超克する強さは、「障害」があるからこそ獲得できるのかもしれませんが、大学での学問研究において、「障害」を取り除くためには公的支援、人的サポートも重要でしょう。創理から操理へ、そして操理から創理へ。障害学生支援の現場では、創理と操理の往還が間断なく繰り返されているのです。第二部では障害当事者の若手研究者4名に登壇していただきます。

コーディネーター：村田 淳（京都大学 学生総合支援センター 准教授）  
発表者：木下 知威、後藤 睦、安井 絢子、ライラ・カセム  
コメンテーター：熊谷 晋一郎（東京大学 先端科学技術研究センター 准教授）

### 12:15 ■ 昼休憩

### 13:30 ■ 第三部：「理を奏でる」

創理と操理の反復により鍛えられた研究者は、さらに先に進み、「理を奏でる」境地に至ります。これまでの学問体系に対する異議申し立てをし、新たな“理”を打ち出した後には、その新理に基づく社会を構築しなければなりません。第三部では、研究と社会を架橋する多彩なワークショップの実践事例などを紹介します。「大学が社会を変える」のスローガンの下、第一部、第二部の議論を整理し、広い視野から「障害」の意味を再検討するのが第三部の目標です。“理”を楽器に例えるなら、楽器を創る人（制作者）、操る人（各楽器のプレイヤー）、奏でる人（オーケストラ）がいます。オーケストラの名演奏は楽器制作者の技術、複数のプレイヤーの実力に支えられているのは疑いないでしょう。三者の協働により「理のバリアフリー」が達成されることを最後に確認します。

パネリスト：磯部 洋明（京都大学 大学院総合生存学館 准教授）  
岩隈 美穂（京都大学 大学院医学研究科 准教授）  
塩瀬 隆之（京都大学 総合博物館 准教授）

### 15:00 ■ クロージング

### 15:15 ■ 閉会